



竹山小だより



令和7年4月

学校 HP もご覧ください

令和7年度、竹山小開校2年目がスタート



4月7日（月）に始業式、8日（火）に入学式を行い、全校児童126名で竹山小学校の2年目がスタートしました。統合初年度の令和6年度は、地域・保護者の皆様のたくさんの支えにより竹山小学校の第一歩をしるすことができました。

今年度も子どもたちのじりつ（自律・自立）に向けて全職員が子どもたちに寄り添いその可能性を見出してまいります。保護者、地域の皆様には、ともに歩むパートナーとしてご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

始業式では、担任等の発表のあと、学校長から、「できたことにではなく、たとえできなくても挑戦したことに拍手を送ろう」と挑戦することの大切さや友だちのがんばる姿を認める大切さについて話しました。「失敗 OK」を合言葉にたくさんの挑戦が見られる竹山小学校になることを期待しています。



1年生17名が竹山小の仲間入り ～4月8日入学式～

8日（火）の入学式には5、6年生が参加し、代表の歓迎の言葉のあと、「春が来た」を1年生と一緒に歌いました。2～4年生は教室からオンラインで入学式の様子を視聴し、全校生で温かく1年生を迎えることができました。

1年生は、担任の呼名に対して、元気よく手を挙げながら「はい」と大きな声で返事をし、竹山小学校への仲間入りをしました。



5年生、6年生は入学式の準備や片付け、受付など自分の仕事を責任もってやり遂げ、進んで行動する姿もたくさん見られました。翌日からの登下校でも、1年生の手を引いてやさしく導いてあげる姿からは、竹山小学校の新たなリーダーとして全校生をリードしていこうとする気持ちが伝わってきました。



学校教育目標

ふるさと竹山で、子どもたちが人とかかわりながら、じりつ（自律・自立）する学校
～失敗 OK の学校から社会や未来を切り拓く子どもたちが育っていく～

めざす子どもの姿

- ◆自分のよさに気づき、自分も相手も大切にできる子（自立）
- ◆人とかかわりながら、自分（たち）で自分（たち）の学びを深める子（自律）
- ◆ふるさと竹山の「ひと・もの・こと」や身近な疑問や課題から学べる子

めざす子どもの姿を実現するための方策

■誰一人取り残さないプロジェクト ⇔ 自分のよさに気づき、自分も相手も大切にできる子

- (1) 違いや多様性を認め合える学級経営・学団連携
- (2) 特別な支援を必要とする児童への対応力の向上
- (3) 教育相談体制の充実、関係機関との連携（SC・教育支援センター等）
- (4) 自己肯定感の高揚、自分のよさ・友だちのよさに気づく取組
- (5) 年間を通じた縦割り遊び・縦割り掃除。子どもたちとともに創る児童会・学級会活動
- (6) 子ども園、中学校と連携した取組
(アブカリ・スタカリ、5歳児5年生連携、トライやるウィークや出前授業・人権交流会によるキャリア形成)

■学びを変えるプロジェクト ⇔ 人とかかわりながら、自分（たち）で自分（たち）の学びを深める子

- (1) 朝遊びとリズムジャンプトレーニングによる心の安定や運動能力の向上・脳の活性化
- (2) 主体的・対話的で深い学びのある授業の創造（協働×個別×ICT）
- (3) 自ら学ぶ力を育む学習の取組
(子どもに委ねる教師の意識改革、児童進行型授業、複数教科・複数単元での自由進度学習)
- (4) プロジェクト(2)(3)に取り組むことで、7つの自己調整力と粘り強さなどの育成を図る支援の在り方の研究

■地域・家庭と一緒にプロジェクト ⇔ ふるさと竹山の「ひと・もの・こと」や身近な疑問や課題から学べる子

- (1) 地域・家庭とめざす子ども像を共有し全員が当事者となる取組
- (2) 基本的な生活習慣の定着に向け家庭と連携した取組
- (3) CSを活用した両地域の教育資源（ひと・もの・こと）の効果的な活用と学校参画の推進
- (4) 竹山学（生活科・総合的な学習の時間）を核とした地域と連携した学習
- (5) HPや学校だより、通信等による積極的な情報発信
- (6) 学校行事、オープンスクール、授業参観などの積極的な公開

めざす教職員の姿

- ◆子どもに寄り添い、子どもの可能性をみいだす教職員
- ◆心身ともに健康で、協働して新たなことへの挑戦や学校づくりを楽しめる教職員
- ◆家庭・地域をパートナーと認識し、児童の成長に向け主体的・組織的に取り組む教職員

保護者の姿（令和6年度7月の懇談会より）

- ◆保護者同士や先生方と仲よくつながる
- ◆子どもたちの個性を尊重し、多様な考え方を認め合える
- ◆子どもの声を聞く・聴く。子どもの変化に気づける
- ◆親がよいお手本になる

地域の姿（令和6年度運営協議会より）

- ◆地域のよさや伝統を子どもたちに伝えたい
- ◆見守りだけでなく子どもたちや先生方を支援したい
- ◆子どもたちが地域の方々とつながる企画を考えたい
- ◆地域が好きだという子どもを育てたい